令和２年度

学校自己評価報告書

令和３年５月

学校法人日本コンピュータ学園

東北保健医療専門学校

■令和２年度　　学校自己評価について

学校法人日本コンピュータ学園　東北保健医療専門学校は、東北における介護・医療・福祉の専門職を養成する教育機関として、平成 23 年に開校し、病院・施設・地域との連携を強化し、職業実践的な教育により、業界の最前線で活躍できる医療福祉従事者の育成を目指しております。

本校では、平成 24 年度からより良い自己評価を目指して、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行い、現状・課題の把握ならびに改善策の検討・実施を行っております。また、評価にあたっては、教員の自己評価、学生アンケートなども踏まえて行っています。今後も、学校自己評価の結果を活かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

１、対象期間

令和２年４月１日～令和３年３月３１日

２、実施方法

（１）学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っております。

委員会構成：委員長　　校　長

委　員　　法人事務局部長、就職センター室長、進学相談室室長
教務部長、教務課長、教務主任、総務課長

（２）評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。

（３）評価は、年一回行います。

（４）評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行います。

３、自己評価の項目

自己評価は、以下の１１項目を実施します。

（１）　教育理念・目的
（２）　学校運営
（３）　教育活動
（４）　学修成果
（５）　学生支援
（６）　教育環境
（７）　学生の受け入れ募集
（８）　財務
（９）　法令等の遵守
（１０）社会貢献・地域貢献
（１１）国際交流

４、評価項目に対する評価

評価は、４～１の点数で記載します。

評価　　４：適切　　３：ほぼ適切　　２：やや不適切　　１：不適切

■基準１　教育理念・目的

教育理念

１．基本的資質の修養
　品性を磨き、自己の人格形成に努めること
２．知識と技術の体得
　理解を伴った正確な技術の訓練を継続すること
３．調和のとれた心の鍛錬
　心の平静を保ち、前向きな姿勢で取り組めること

人材育成像

1. 人の痛みがわかる「深い人間理解」の育成
2. 困難にあってもひるむことなく、最後まで決してあきらめない「忍耐力と情熱の持続」の育成
3. 解決への糸口をいち早く発見し、実践出来る「適切な情報収集力と実行力」の育成
4. いつでも笑顔で人に接し、喜びを与えることができる「安心感のある人間性」の育成

（１）評価

評　価　項　目		評価（4～1）
a	理念・目的・育成人材像は定められているか	(4) 3　2　1
b	学校における職業教育の特色を示しているか	(4) 3　2　1
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	(4) 3　2　1
d	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 (3) 2　1
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	(4) 3　2　1

（２）状況および課題と改善策

a. 理念・目的・育成人材像、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて明確に定め、学生便覧・学修要項（運営方針・教育計画）・入学案内・ホームページに明示している。

b. 職業実践専門課程における教育課程編成委員会や各科内で、現状の業界の状況を見定めながら、カリキュラム内容を検討している。新しい職業教育の試みとして、地域包括ケアに資する人材育成のために、関連職種の連携について複数学科で講義を運営するなど体制を整備することができた。

c. 令和 2 年度は関連業界団体や教育課程編成委員会の意見などを踏まえ、長中期的事業方針を作成した。医療・福祉・保健業界や教育行政の動向を捉え、理学療法科・作業療法科の4年制への検討や新設学科の設置など検討を進めていく。

d. 教育理念や育成人材像については、体験入学会やオープンキャンパスにおいて入学前に学生と保護者に十分な説明をしている。感染症対策により、入学後のオリエンテーションなどが縮小されたため、保護者への説明が不足している部分は今後補うとともに、臨床実習の運営も含め学生の修学について保護者に協力いただけるよう周知を継続して行っていく。

e. 医療の質の担保やリスク管理など社会経済のニーズを踏まえた人材育成像について、高等学校の進路指導の担当者などと理解を共有することで、入学後の学習継続や進路変更に良い影響を与えられるよう今後も学生・保護者への周知と高等学校との連携に努めていく。

■基準２　学校運営

（１）評価

評　価　項　目		評価（4～1）
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3　2　1
b	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 (3) 2　1
c	運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4 (3) 2　1
d	人事、給与に関する制度は整備されているか	(4) 3　2　1
e	各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 (3) 2　1
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	(4) 3　2　1
g	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	(4) 3　2　1
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 (3) 2　1

（２）状況および課題と改善策

a. 学則の目的、基本方針及び職業実践専門課程の目的に基づき、すべての学科の運営方針を定めている。

b. 事業報告書として法人の概要、事業概要、毎年度の事業計画などを明示している。また、職業実践専門課程の基本情報および高等教育の修学支援制度で、具体的な教育活動を公開している。

ce. 学校運営上、感染症対策をするうえで速やかな意思決定・情報共有が必要とされ、緊急時に教職員の対応に遅れが生じた点については、早急に見直しを行い改善すること

ができた。また、次年度に向けた組織や委員会の体制整備を行い、役割分担は明確になった。今後は業務分掌を明確にしていく。

d. 人事、給与の制度は法律改正に合わせた見直しを適宜実施し、整備している。

f. 学校法人及び学校に必要な規定は整備され、官公庁及び関係団体との文書の収受等対外的なコンプアライアンスは維持され、適切に対応している。

g. 学校案内や学校ホームページ･ブログ、教育課程編成委員会などで情報公開は適切になされている。

h. Desknet's（グループウェア）やファイルサーバーなどの利用により概ね業務の効率化が図られている。オンラインでの会議の開催やビデオ通話を用いた Web 会議も新たに取り入れて業務に活用している。引き続き、出席管理や成績管理については見直しと業務効率化を図っていく。

■基準３　教育活動

（１）評価

評　価　項　目		評価（4～1）
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている	④ 3 2 1
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
e	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
g	企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか	4 ③ 2 1
h	授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
i	成績評価・単位認定の基準は明確なっているか	④ 3 2 1
j	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1

k	必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
l	関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	④ 3 2 1
m	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

（２）状況および課題と改善策

a. 教育課程は指定規則に則り策定している。各学科の実施方針は、学生便覧で教育目標として明記している。

b. 教育課程編成員会の意見を参考に、一定の教育到達レベルに達するため、授業時間外の課題、取り組みを工夫している。実際の取り組みとしては学生の学修状況や到達レベルに応じて、繰り返し演習指導を行っている。学生に配布するシラバスは、予習復習のポイントを明記しており、教員は講義や演習で使用する資料や教材を工夫することで内容理解が深まるよう努めている。また、オンライン授業が多用された点については、教員とのコミュニケーションが図れたとして教員・学生にとって良い面があった。

c. 理学療法科・作業療法科は新カリキュラムでの運営を開始した。介護福祉科も指定規則改訂に伴い令和3年度よりカリキュラムを変更した。歯科衛生科は、卒後の職域の拡大や国家試験内容も踏まえたカリキュラムや履修時間数について見直す予定であり、医療秘書科・医療情報管理科は学科再編成の検討を進める。

d. 本年度はオンライン授業を多く実施した。医療や介護の現場で働く専門職として、感染予防対策の様々な取組みは、実践からの知識・技術の構築が得られたと学生にも良い影響があった。臨床実習は専門家から様々な協力や情報提供を受け、感染症のリスク管理上、すべて学内演習に切り替えたが、臨床実習同等の知識を習得できるような実施運営をすることができた。

e. 教育課程編成員会を年2回実施し、委員より意見をいただき、カリキュラムや授業内容の見直しや変更を行っている。

f. 理学療法科・作業療法科・介護福祉科は新カリキュラムの着実な実施に向けて、関連業界と連携して授業、実習の検討を継続していく。引き続き、病院実習の時期の検討や実習先の開拓を行っていく必要がある。

g. 教育課程編成委員会を年2回実施し実習指導者や事業所責任者の意見を実習内容に反映している。各分野のスペシャリストを講師に迎えて、実践的な能力を習得する機会も設けている。

h. 学生が教員を評価する授業評価アンケート及び教員の講義演習に関する自己評価アンケートを実施し、学生と教員の両方の課題を共有することで、今後も授業改善に繋げていく。

i. 高等教育の修学支援新制度における機関要件として「厳格かつ適正な成績管理の実施」が必要であり、「授業設計（シラバス）と成績評価のガイドライン」を作成・整備している。

j. 国家試験対策・認定資格取得に向けた取組みを計画的に実施している。

k. 必要に応じて、各分野の専門家を講師として迎え、実践的な技術や知識を教員に伝達している。

lm. 多くの学会・研修会が新型コロナウイルス感染症拡大により、中止やオンラインでの運営に変更されたことで、教職員の研修等の受講機会は十分ではなかったが、年度末に指導力向上のため、ジョブ・カードを用いたキャリアアップ研修会を実施し、自己の仕事への取組みの振り返りと次年度に向けた新たな行動目標を明確化するなど結果的に能力開発のための取り組みを行うことができた。

■基準４　学修成果

（１）評価

評　価　項　目		評価（4～1）
a	就職率の向上が図られているか	(4) 3　2　1
b	資格取得率の向上が図られているか	(4) 3　2　1
c	退学率の低減が図られているか	4 (3) 2　1
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2　1
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	(4) 3　2　1

(2)状況および課題と改善策

a. 令和 2 年度の就職内定率は 98.1%だった。今年度は臨床実習を学内演習に切り替えたことで、学生への早期意識づけや就職指導など、就職センターと連携しきめ細かい支援を行ったため良い結果が出ている。

b. 介護福祉科、歯科衛生科ともに国家試験合格率は 100%だった。理学療法科、作業療法科はいずれも全国平均を上回る合格率であった。

c. 退学率を低減させるため入学前学習支援を導入し、学生個々の学習への取り組み状況の把握に努めた。また入学直後からオンラインも含めて学生面談をきめ細かく実施し、早めに支援することで、本年度の退学率は軽減でき、一定の成果を上げることができた。

d. 卒業生の各職能団体への入会率は全国平均より大きく上回っており、研修会や学会の参加率も高い。学び・学習に対する意欲が高い卒業生が多いことは、今後の活躍について積極的に把握する必要がある。

e. 今年度は厚生労働省において普及を進めている、「生涯を通じたキャリア・プランニング」及び「職業能力証明」の機能を担うツールであり、キャリアアップや就職等を促進する「ジョブ・カ

ード」を用いて、宮城・山形キャリアサポートセンターの協力のもと自己分析講座を各科で実施することができた。

■基準５　学生支援

(1)評価

評　価　項　目		評価(4～1)
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3　2　1
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2　1
c	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	(4) 3　2　1
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3　2　1
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3　2　1
f	学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3　2　1
g	保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2　1
h	卒業生への支援体制はあるか	(4) 3　2　1
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	(4) 3　2　1
j	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2　1

(2)状況および課題と改善策

a. 就職センターの専任職員から学生対応の内容について定期的な報告を受けることにより、学生の進捗状況が明確になり、担任との連携が促進された。

b. 学生サポート室の体制整備がなされ、担任経由で直接相談を受ける場合と、当校の学生サポート委員会が相談内容に応じて部門担当者に取り次ぎ、学生の支援や問題解決に導く場合があり、そういった体制や取り組みを学生にも周知することができている。

c. 特別奨学金、試験特待生、資格特待生など本校独自の学費免除制度の導入や学費分納・延期など、いろいろな側面から経済的支援をおこなっている。また日本学生支援機構奨学金や各種公的奨学金、民間奨学金の積極的な紹介や円滑な事務を心がけて学生を支援している。国の給付型奨学金(返還不要)についても適切に相談に応じている。令和2年6月には新型コロナウィルス感染症拡大の影響による家計の急変や学生アルバイトの収入の減少により、修学の継続が困難な学生が増えてきていることから、「日本コンピュータ学園　修学支援金」(一人当たり3万円)を学生に支給した。

d. 健康管理委員会を設置し、保健室と感染症に関する情報共有など密に行っている。また、学生の現状を把握するためにシートを作成することで、組織的に活動することができた。感染症対策は文部科学省で示されている「学校の新しい生活様式」に基づいて運営している。

e. 課外活動、ボランティア活動は感染症対策のため自粛するなど、中止になったものが多かった。

f. 校内には、学生食堂や売店、地下駐輪場など施設・設備は整っており、学校生活の利便性を高めている。また、生活上の支援については、学生便覧に規則を定め、学校として適切に対応している。学生寮では、学生寮担当者と連携して生活上の課題を解決できるよう適宜対応している。

g. 学校と保護者との連携のあり方については、学習状況に加え、健康支援、学費面などに関して、保護者と個々に連携し対応している。各科担任も含めて様々な対応をしているが、感染症対策により学校行事を大幅に縮小したことで、保護者と情報共有する場が少なくなったため、今後は各種支援担当、役割、連携の基準などについて整備するとともに、その取り組みなどを保護者に周知する機会を設けて積極的に取り組んでいく。

h. 卒業生に対する取り組みとしては、医療文献検索サービス「メディカルオンライン」に同窓会として加入し、日々の業務に活用するための情報収集や文献検索を行いやすくした。今後は同窓会としてどのように継続的な利用に繋げていくか検討する必要がある。

i. 社会のニーズの変化に対して正しく把握するとともに、実現可能かどうかを適切に検討することで、社会・業界で必要とされる教育環境は整備している。

j. 高校生の進路決定において高等学校と適切に連携することは必要であり、今後もより良い体制を整備していく。介護福祉科の高校訪問ガイダンスや介護従事者確保対策事業で高校訪問を実施し、学生および進路指導部教諭への説明を適宜行っている。

■基準６　教育環境

(1)評価

評　価　項　目		評価(4～1)
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
b	学内外の実習施設、インターシップについて十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1
c	学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4 (3) 2 1
d	防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4 (3) 2 1

(2)状況および課題と改善策

ac. 学科数、学生数に対して教室数が十分かどうか、試験前に学生が使用できる教室の確保など、学生の利用状況も把握しながら、適確な施設・設備の整備・更新を検討していく。また、具体的な意見集約や予算案作成を行うなど、優先順位を決めて計画的に対応する必要がある。

b. 学内外の実習施設の確保に向けた取組みは、コロナ禍ではあったが例年通り実施できた。同時に実習受け入れ施設に所属する臨床実習指導者の確保も必要なため、研修会を企画し実施するなど十分な教育体制を整備することに努めている。

d. 学内の安全管理体制は整備されている。今年度はコロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、学内における姉妹校合同での防災訓練や地域合同防災訓練の実施が困難だった。

■基準７　学生の受け入れ募集

（１）評価

評　価　項　目		評価（4～1）
a	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3　2　1
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3　2　1
c	学納金は妥当なものとなっているか	④ 3　2　1

（２）状況および課題と改善策

a. 学生の募集広報活動における内容や説明表現については、実績を基に適切な判断材料を提供出来るように配慮し、真実性、透明性をもった情報提供及び募集活動を行っている。

b. オープンキャンパスでは、職業理解を目的とした「体験実習」を充実させ、入学後のミスマッチを防ぐ工夫も施している。また、正確な入試関連情報の提供、アドミッションポリシーも適切に伝えることで、入学希望者に学校選択をするうえで必要な情報を積極的に提供している。感染症予防としてオンラインでの学校説明会や進路相談会も実施しており、状況に応じた体制を早急に整備し、新しい形での学生募集活動にも取り組むことができている。

c. 学納金は、教育内容や教育環境、他校の学費水準に照らし、妥当な額を理事会において決定している。学費以外に必要な経費の他、卒業までに必要な経費全てについて募集要項に記載し、透明性のある情報提供を行っている。

■基準８　財務

(1)評価

評　価　項　目		評価(4～1)
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3　2　1

b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1
c	財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
d	財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

(2)状況および課題と改善策

a. 学園の財務基盤は安定している。

b. 予算の編成及び執行は適正に実施している。

c. 会計監査は、関連法規により公認会計士及び監事により適正に行われている。

d. 財務情報については、ホームページに「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」を公開している。

■基準９　法令等の遵守

(1)評価

評 価 項 目		評価(4～1)
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4) 3 2 1
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4) 3 2 1
c	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 (3) 2 1
d	自己評価結果を公開しているか	(4) 3 2 1

(2)状況および課題と改善策

a. 各種法令・施設設置基準を遵守し学校運営がなされ、不明な点は適宜監督官庁に問い合わせ、確認を取っており、適正に運営されている。

b. 規定に基づき、個人情報に関する誓約書や同意書を取り扱い、学生および職員に適切に実施している。臨床実習における学生の個人情報開示に関しては、学生に十分に説明したうえで、説明した点に関する同意をとっている。

c. 令和2年度は感染症対策に重点を置きながらも、教職員が連携して日頃から自己評価を怠らず、問題改善に努めてきた。学校関係者評価委員会で最終的に決定したことに対して、具体的な方針を教員に周知するなど、取り組みについて継続的に申し合わせるような機会が十分ではなかったため、今後の課題であり速やかに推進していく。

d. 自己評価結果は適時、公開している。

■基準１０　社会貢献・地域貢献

(1)評価

評　価　項　目		評価(4～1)
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(4) 3　2　1
b	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	(4) 3　2　1
c	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	(4) 3　2　1

(2)状況および課題と改善策

a.　実施計画は立てたが、コロナ禍において地域や市民の保健福祉に帰するような研修会はほとんど実施することができなかった。そのため次年度以降も状況を見て、企画を立て実施に向けて取り組んでいく。

b.　現状の教職員業務体制、学生の学修状況を考慮したうえで、ボランティアの奨励、支援を教員が行っている。

c.　介護福祉科は宮城県介養協の幹事校として、会議の運営や介護人材確保に向けた様々な事業を企画し実施することができた。また、介護人材育成事業は今年度も受諾し実施運営している。歯科衛生科は宮城県歯科医師会、宮城県歯科衛生士会とともに宮城県歯科衛生士離職者支援事業協議会に参画し、研修の企画などに携わった。作業療法科は宮城県における臨床実習指導者研修会を企画運営し、多くの臨床実習指導者の育成に貢献した。

■基準１１　国際交流

(1)評価

評　価　項　目		評価(4～1)
a	留学生の受け入れについて戦略を持って国際交流を行っているか	(4) 3　2　1
b	受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとれているか	(4) 3　2　1
c	学習成果が評価される取組を行っているか	(4) 3　2　1
d	学内で適切な体制が整備されているか	(4) 3　2　1

(2)状況および課題と改善策

a. 昨年度よりベトナム国籍の外国人留学生5名が介護福祉科に入学した。留学生のコミュニケーション能力が高く、オンラインでの受講ではあったが、学びに対する姿勢や学習能力ともに高い水準を維持できた。評価基準もシラバスに則り適切に示しており、十分に理解したうえで学生は学習できている。

b. 留学生の担当部門である学生支援課と連携を取り、適宜業務管理している。

c. 国際交流のイベントが中止になり積極的に外部聴講する機会はなかった。学修面においては通常授業だけではなく、オンラインでの学内実習を実施したことで、学習成果を上げることができた。

d. ベトナム国籍の外国人留学生は令和3年度介護福祉士国家試験を受験するため、合格に向け学生を支援するとともに、積極的により良い体制整備に取り組んでいく。

学校法人日本コンピュータ学園　　東北保健医療専門学校

〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院１丁目３番１号